

はじめの祈り

恵み深き天の父よ、私たちはこれからともにあなたのみことばを学びます。どうか、この集まりをあなたが祝福してください。

励ましと祝福のことばを私に与えてください。

あなたのために良き証人となり、人々に手を差し伸べる方法をどうか教えてください。

これらのことを尊いイエスの御名によって祈ります。アーメン。

聖書朗読：ペテロ第一 3 : 8-16

3:8 最後に申します。あなたがたはみな、心を一つにし、同情し合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、謙遜でありなさい。

3:9 悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。

3:10 「いのちを愛し、幸いな日々を過ごしたいと思う者は、舌を押さえて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず、

3:11 悪から遠ざかって善を行い、平和を求めてこれを追い求めよ。

3:12 主の目は義人の上に注がれ、主の耳は彼らの祈りに傾けられる。しかし主の顔は、悪を行う者に立ち向かう。」

3:13 もし、あなたがたが善に熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。

3:14 いや、たとい義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動揺させたりしてはいけません。

3:15 むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。

3:16 ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの正しい生き方をののしる人たちが、あなたがたをそしったことで恥じ入るでしょう。

A. 導入ー神のみこころを知る重要性

今日は、私たちの人生に対する神のみこころをどうやって知るかについてお話します。

私は日本ミッションの創設者である父ニール・ファベイのもとで長年奉仕しました。

父が召された 2013 年から、私はたくさんの責任を負いました。

私自身の人生に対する神のみこころについて、そして日本ミッションに対して神が望まれる方向性について祈りを積み重ねました。

神のみこころの中にいなければ、深刻な過ちを犯す危険性があるとわかっていたからです。

神のみこころについて、ここでいくつか例を挙げてお話しましょう。

1. 神のみこころから外れた宣教師の場合

南アフリカ出身の忠実な宣教師が、米国で集会を開きたいと言ってこられました。

彼のみことばの説教は祝福されるものだったので、私たちは米国に行くお手伝いをし、米国各地の知り合いにも紹介しました。

その宣教師が日本に戻ったときの言葉は今も忘れられません。

「米国にいたときほど、主のみこころから外れていると思ったことはなかった。」

これは、私にとって大切な教訓となりました。

それが良い機会で、霊的にもプラスとなる可能性があったとしても、何かを決断するときは常に、主のみこころを見分けられるよう注意しなければなりません。

2. 将来を案じる宣教師の場合 (2014年、アニー)

ある年配宣教師が、私にこう言いました。

「電車に乗ってあちこちの教会で英語を教えるのはもっと若い人のほうがいいんじゃない？」

私は、もっと年配の宣教師を主が連れてこられるかもしれないと答えました。

大切なのは年齢ではありません。本人が、神のみこころのうちにいるという確信を持っていることです。

日本ミッションのスタッフが奉仕を続けるべきか迷ったときに私がよく言うのは、次の3つのことです。

「ニーズに振り回されないこと。」

「神はそのニーズを満たすために誰かを立てられる。」

「大切なのは、私たちが主の導きを尋ね求めて、それに従うこと。」

私たちの人生に対する神のみこころを悟るのを妨げる事柄はいろいろあります。

B. 思い煩いは妨げとなる

神に導きを求めるとき、神のみこころを悟るのを思い煩いによって邪魔されないよう注意する必要があります。

思い煩うことで、目標を見失ったり、夜寝られなくなったりします。

病気を引き起こすこともありますし、私たちに対する主のみこころから完全にはずれてしまうこともあります。

コリー・テンブームは言いました。

「心配とは、今日の力で明日の重荷を負うことです。一度に二日分の重荷を負うのです。

それは、明日に先回りすることです。

心配したからといって、明日の悲しみはなくなりません。

今日を生きる力を奪っていただけです。」

1. 眠れない夜の話

私には、思い煩おうと思えばそうできることがたくさんあります。

身の安全、旅の計画、経済的なこと、日本ミッションの働きや働き人についてもそうです。

懸念事項は、入念に計画し問題を回避するのに役立つこともあります。

朝早く起きる必要があるときに、目覚まし時計をふたつかけるとか、

約束の時間に遅れないように、早めに家を出る、などです。

けれども、思い煩いのせいで夜眠れなくなることもあります。

そういうときは、そのことについて考えないときっぱり決断します。

そして、心配事を主にゆだねる祈りをします。

ある人は言いました。「寝られないときは、羊を数えないで、羊飼いに話そう。」

私が羊の代わりに恵みを数え始めると、徐々に眠くなります。

そうして、翌朝は元気に目覚めることができます。

忘れないでください。

自分ではどうしようもないことについて思い煩うのは、主のみこころではありません。

これから、勝利の人生を歩めるようどのように主が助けてくださるかをお話します。

C. 正しい目標と間違った目標

勝利の人生を歩むとは、神のみこころに沿って歩むことです。

勝利の人生を歩もうとすると、正しい目標と間違った目標を見分けることが必要であることに気づかされます。

ここでふたつ例を挙げてみましょう。

1. 母親

(i) 母親にとって間違った目標とは、誰も泣いたりわめいたりけんかしたりしない仲よし家族になるというものです。

それは良い願いですが、間違った目標です。

誰でもこの目標の妨げとなり得ます。赤ちゃんが泣くこともあれば、夫が気のつかない人である場合もあります。

(ii) もっと良い目標とは、どんな状況に置かれても敬虔な反応をすると決心することです。

2. 約束

(i). 次の例は、約束についてです。

私にとって間違った目標とは、どんな約束事にも決して遅れず、すべてをスムーズに運ばせるというものです。

車のタイヤのパンクや渋滞など、なんでも目標の妨げとなり得ます。

私が南アフリカにいたあるとき、部屋を暗くしてビデオを見せようとした瞬間に停電しました。

こういうことが起こると、イライラしたり腹が立ったりする可能性があります。そうすると、神のみこころから完全にはずれてしまう可能性があります。

(ii). 私は、どんな状況でも自分に与えられたところで神に栄光を帰す、という目標を持つべきでしょう。

3. 排水管の話

ときには、神が私たちの計画を変えられることがあります。私たちが誰かにキリストのことを話すためです。

想定外のことが起こると、やきもきします。

私たちは、何事も偶然には起こらないと覚えておく必要があります。

神は、目的をもってすべてのことが起こるのを許されます。私たちには理解できないときでもそうです。

ひとつ例を挙げてお話します。

泊まりのお客さんを迎えていたときのことで。

私はメッセージの準備で忙しくしていました。

すると、客室のキッチンの排水管が突然詰まってしまったのです。

いろいろ試しましたがダメで、結局、水道屋さんを呼びました。

私は心の中で、「主よ、どうしてこんな忙しい時にこんなことを起こされたのですか」と思っていました。

来てくれた水道屋さんは年配の人で、以前お世話になったことのある人でした。

その人は排水管の修理を終えると、こう言いました。

「もうずいぶん年になったけれど、私は天国に行くのか地獄に行くのかわかりません。でも私の生きているうちにまた詰まったら、いつでも来ますよ。」

その言葉に私は驚きました。

私は、この人にキリストのことを分かち合うよう神が望んでおられると感じました。

そして、この人とじっくりと話をし、ヨハネの福音書のトラクトを渡しました。

永遠の運命について確信を持つことができる、と説明しました。

水道屋さんが帰った後、忙しいスケジュールだったのに主が何もかも備えてくださったことに気づきました。

そのとき準備していたメッセージの中で引用できる新たな例話も与えてくださいました。

また大切なことを教わりました。

私たちの目標や願望が神のみこころに沿っていれば、多くの不安やいらだちから解放されます。

主に仕える中で、主は私たちに尊いことを教えてくださいます。

例を挙げてお話ししましょう。

4. 英語キャンプの話

数年前、山に行く英語キャンプを企画しました。

あらゆる手配を済ませ、食料も買いました。

キャンプの数日前から、天気予報は、そのシーズン最大規模の台風が上陸すると伝えていました。

計画では、ロッジに宿泊し、野外で料理をすることになっていました。

そこには、台風で倒されたら大きな被害が出るであろうと思われる大木がありました。

私たちはどうしてよいかわかりませんでした。主は心配せずに祈るようにと明確に示してくださいました。

私たちの目標は、どんな状況であっても神に栄光を帰することであるべきです。

私たちが祈っていると、しばらくの間、台風が速度を落として進行方向も変わりました。

キャンプ当日、星空の下、おいしい食事をし、キャンプファイヤーを囲んで歌を歌いました。

そして、たくさんのノンクリスチャンの生徒たちと神のみことばを分かち合いました。

キャンプ場スタッフは、追加料金なしで本館の宿泊施設に泊まれるようにしてくれました。

翌朝は、朝食を食べてから予定通りプログラムを続けられました。

台風はまだ 1,000km も離れたところにはありましたが、強い雨風が窓をたたきつけていました。

午後になってキャンプが無事終わり、生徒たちを解散させました。

夕方、トラックの荷物を降ろしました。

その日の深夜 0 時ごろ、台風は私たちの地域を直撃しました。

天気予報が伝えていたよりも 24 時間遅れての上陸でした。

私たちの目標と願いが神のみこころに沿っているなら、多くの不安やいらだちから解放されると、改めて神は教えてくださいました。

D. それぞれのクリスチャンに対する神のみこころ

多くの方は、自分の人生に対する神のみこころを知りたいと願います。

ここで、すべてのクリスチャンに対する神のみこころだと私が信じている事柄をいくつか分かち合います。

1. 聖なる生き方をする

最初に、私たちが聖なる生き方をするのは神のみこころです。

ペテロ第一 1 : 15

1:15 あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。

私たちの罪や自己中心が、神のみこころを知る妨げになることがあります。

これはたいいていの場合、過程です。

聖霊

私たちが救われたとき、聖霊を受けました。

問わなければならないことは、私たちがどれだけ聖霊に明け渡しているかということです。

神に明け渡したくない部分が私たちにはあります。

神の心を悲しませるような言葉を言ってしまったり、主に喜んでいただけないようなことをしてしまったり、ということです。

それらのものをすべて神に明け渡ししましょう。心も思いもすべてです。そうすれば、「聖なる」という言葉の本当の意味がわかってくるでしょう。

「聖なる」とは、神に使われるためだけに取っておく、ということです。

日本を訪れたある教授が、そのことを明確に教えようと思いました。

そこで、自分の履いていた靴を脱いで聴衆に見せ、「この靴は、私専用です。履いてよいのは私だけです。同じように、私たちは神専用です。神だけに用いていただくために取っておかれています。」と言いました。

これは、日本人の人たちにとって深く印象に残ったようです。

靴は汚いので、誰も他人と靴を共用したいと思わないからです。

私たちは、イエスがお召しになる服になるということです。

ガラテヤ 2 : 20a

2:20 私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。…

私たちの人生は、神からの賜物です。

その賜物の使いようで、神にお返しすることができます。

私たちクリスチャンにとっては、毎日が神の愛に応えるという選択のできるチャンスです。

私たちのなすすべてにおいて、神だけに用いていただくようにしましょう。

2. 常に証する準備をしておく

次に、人に証する準備をしておくのも神のみこころです。

ペテロ第一 3 : 15 には、「…あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。」とあります。

もし誰かに、「台風が近づいているのに、どうしてあなたはそんな笑顔で穏やかでいられるの？」と聞かれたら、応えられる準備をしておくことは神のみこころです。

「36年でも幸せな結婚生活を送れるのはどうして？」と尋ねられることがあります。

私は、「ただ神の恵みのおかげです。もう少し詳しく説明しましょうか。」と答えます。

そう言うと、人は興味を持ってくれます。そうすると、私がたくさんの愛とあわれみと恵みを受けてきたことを証するチャンスを得ます。

私たち夫婦は、互いにそう接してきました。

それが、夫婦の絆を深めてくれます。

このようなお話をしたのは、人に尋ねられたときにイエスを指し示す答えができるよう準備しておくことが大事だとお伝えするためです。

a. 占いの話

「うちにある希望について説明」するときに、固定概念を取り払うように導かれるときがあります。

ある年配の女性は、将来を悲観していました。

外国で商売にかかわるある重要な決断をしなければなりません。

それで、日本ミッションに、よく当たる占い師を紹介してもらえないかと電話で問い合わせられてこられました。

電話の応対をしたスタッフは、少し考えて答えました。

「はい、来てください。将来のことについてお話ししましょう。」

女性が来ると、スタッフは福音と永遠のいのちに見いだせる希望について説明しました。そして、黙示録について話し、クリスチャンがどうやって未来のことがわかるのかを話しました。
その女性は一心に聞き入っていました。

翌日女性がもう一度来られたので、日本ミッションのスタッフは、主を受け入れる心の準備ができたかと尋ねました。
すると、「もう受け入れました。家に帰って、言われたとおりにやってみたら、心が軽くなったのです。」
現在、女性は教会に通い、主との歩みを続けています。

占い師の問い合わせに対して、スタッフが柔軟な対応をしたので、その女性が主と出会うお手伝いをすることができました。
占い師や星占いで将来のことを知ろうとする人を見下してしまいがちですが、むしろ私たちは、愛と思いやりをもってその人たちに接するべきです。
聖書は、未来の希望も平安もない人たちに多くのことを語ってくれます。
私たちには、キリストの福音を語る上で柔軟性が必要です。

3. 良い行いをする

第三に、良い行いをとおして人々の目をキリストに向けさせることは、神のみこころです。

マタイ 5 : 16

5:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

態度、情報、必要性

キリストのために失われたたましいに手を差し伸べることに於いて、良い行いが重要な役割を果たします。

知恵のある宣教師はかつて言いました。

「私たちが福音を分かち合うときに敏感であるべき事柄が3つある。」

態度、情報、必要性

これら3つの事柄は、良い行いをとおして人に手を差し伸べることと関連しています。
これらの事柄は、周囲の人々をキリストに導くのに役立つと私は考えます。

a. 態度

ひとつめは、態度です。

態度の悪い相手に福音を分かち合うのはたいへんです。

まず、一定の人間関係を築いて相手の敬意を得られれば、ずいぶんハードルが下がります。
良い行いをするには、人の態度を変えるのに大きな役割を果たすと経験から学びました。

ですから、日本ミッションでは英語や料理や音楽を教えているのです。

また、ホームレスのために食糧を寄付したり、被災者支援活動に参加したりしてきました。
そういった活動が、人との関係を築き、認められる結果につながります。

もう一度、マタイ 5 : 16 を読みます。

5:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

みことばは、救われていない人たちが私たちの良い行いに気づくと語ります。

その人たちは、私たちがあがめるのでしょうか。違います。

聖書は、天におられる私たちの父をその人たちがあがめると語ります。
私たちの良い行いが人に重要な影響をもたらすことを覚えておく必要があります。

例を挙げてお話ししましょう。

a. (i). 地震、津波、原発事故

私たちが近年で直面した最大の課題は、東日本大震災と津波でした。

2011年3月11日、東北地方沿岸部が数百 km にわたり壊滅的な被害を受けました。

犠牲者は1万9,000人にのぼり、50万人もの人が避難生活を余儀なくされました。

津波は、原子力発電所にも被害を及ぼしました。

7年後の現在も、3つの町では放射線量が高いレベルにあり、帰還困難区域に指定されています。

約10万人が帰還できずに今も避難生活を送っています。

当初、日本ミッションの支援者が祈って寄付を送って下さいました。私たちは、霊的にも助けになる方法で被災者支援をするよう示されました。

けれども、当時はトラクトを配ったり、福音を伝えるような時期ではありませんでした。

人々が必要としていたのは、食料、毛布、避難場所、暖かい抱擁、そして、家から泥を掻き出してくれる人手でした。

主は、地元の教会をとおして支援活動をするのが一番良い方法だと示して下さいました。

住民たちが、支援物資や支援者が地元の教会から来ていると思ってくれるようなかたちで、私たち日本ミッションの働き人たちは教会と協力しました。

多くの人たちがその支援をありがたいと感じてくださり、初めて地元の教会に足を運んで下さいました。

a. (ii). 住民と物資の例

ある町では、礼拝のある日曜日以外は毎日物資の配布がありますと住民に伝えられました。

けれども、住民の方々は日曜日にも来られました。

そして、「物資をもらうために来たものではありません。礼拝に出席しにきたのです。」と言いました。

こうして人々の心が急に開かれ、多くの方が主に導かれました。

a. (iii). 気仙沼の例

気仙沼のある教会では、震災の前の年には新しく救われた人はいませんでした。

その18ヶ月後、15人の人が救われました。

そこで私たちは大切なことを学びました。今では私たちスタッフはいつでも行動を起こせるように準備ができています。

2016年4月16日、熊本大地震がありました。

4万4,000人が被災しました。

日本ミッションの働き人たちは、すぐに行動を起こし、多くの方が福音を受け入れました。

主が私たちの良い行いをういて、教会に対する住民の態度を変えて下さいました。

これだけの人が、主と出会いました。

私たちが良い行いをするとき、聖霊がその行いをういて、人々の心を変えて下さるのです。

B. 情報

福音を分かち合うときに私たちが敏感であるべきふたつめのことは、情報です。

トラクト、聖書、メッセージ CD、ネットコンテンツなどは、説得力のある情報源です。

a. ニール師の健康とイナガミ家の例 (2012 年)

私の父ニール・ファベイは、2010 年 11 月にガンと診断されました。それまでに比べて働きのペースは落としましたが、それでも執筆や説教は続けました。父は何よりも、最期まで主に栄光を帰すことを望んでいました。年老いるにつれて、コリント第二 12 : 9 のみことばを尊いと感じていました。

「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」

父は亡くなる直前、病気について主が平安を与えてくださったことについて説教で語りました。

そして、そのメッセージの CD をあるご夫婦に渡しました。このご夫婦は、私たちがいつも使うガソリンスタンドのオーナーでした。

いつもガソリンを入れるのに立ち寄って世間話をしたりしていたので、ご夫婦の私たちに對する態度はすでに整えられていました。

ある日、奥さんが父に近づいてきて、こう打ち明けました。

「主人もガンなのです。手術を受ける予定なのですが、すごく怖いです。CD で言っておられたような平安は私たちにはありません。ニールさんが感じているような平安を感じるにはどうすればよいのですか。」

しばらくして、ご夫婦は日本ミッションに来られ、ふたりとも主を救い主として受け入れられました。

聖霊は、私たちが渡したメッセージ CD とトラクトを大いに用いてくださいました。

こういったツールはとても重要な情報源です。

私たちが良い行いをして人々の態度が変わったら、私たちには情報を提供するチャンスが与えられます。そして、聖霊がそれらを用いて人の心を変えてくださいます。

c. 必要性

福音を分かち合うときに私たちが敏感であるべき 3 つめのことは、必要性です。

主は、深刻な問題と必要を抱えた求道者を私たちのもとへ送られることがあります。

こういうときこそ、私たちは聖霊の導きに敏感にならなくてはなりません。

そういう状態の人にどう接したらよいのかなかかわからないときもあります。

そばにいて、抱きしめてあげるだけでよいことも多いと思います。

主が、何かアドバイスしてあげるように導かれることもあります。

a. お姉ちゃんと金縛りの例

妻が仲の良いノンクリスチャンの友人から相談を受けました。

夜寝ると怖い夢を見て、金縛りにあうと言うのです。

それで、寝るのが怖くなって、うつ状態になりました。

妻は、「イエスさまのお名前によって金縛りがなくなるよう祈ってみたら？」と言いました。

数日後、その友人が「お祈りが効いた」と言ってきました。

「イエスさまのお名前によって金縛りがなくなるように祈ったら、すぐになくなった！」

その後、この友人はイエスを救い主として受け入れる祈りをしました。

その友人の深刻な必要をとおして主がご自身を示してくださり、祈りに応えてくださったのです。本当にすばらしい経験でした。
イエスの御名には本当に強力な力があるのです。

私たちが良い行いをすると、私たちに対する人の態度が変わります。
すると、その人たちと情報を提供する機会を得ます。
それから、主がその人たちの人生に何らかの必要を生じさせられます。
それは、病気や家庭内の問題であることもあるでしょう。
私たちはその人たちと一緒に祈ります。主は、その人たちの必要と祈りに応えて、ご自身の存在をその人たちにあらわしてくださいませ。
このようにして、多くの人たちの心が聖霊によって変えられてきました。

総括

このように、態度、情報、必要性は、日本における私たちの宣教活動で肝心の役割を果たしています。

これらの事柄は、皆さんが周りの人たちにキリストを伝える上でも役立ちます。
私たちは福音を分かち合うとき常にこれらの事柄を覚えておくべきです。

最後に、皆さんを励ましたいと思います。
神のみこころに沿った目標を実現することを目指し、主に忠実に仕えましょう。

私たちの「…うちにある希望について…いつでも弁明できる用意」ができていますように。
あらゆる機会において、神の愛を人々にあらわしましょう。

祈りましょう。

愛する天の父よ、
私たちのすばらしい主イエス・キリストをとおして与えられた救いを感謝します。
どうか、私たちが思い煩うことなく、祈り心ですべてをあなたにゆだねることができるように助けてください。
あなたに栄光をもたらす目標を生活に取り入れることができるように助けてください。
人々に福音を届けるために私たちを用いたいとあなたが願ってくださって光栄です。
自力で人に手を差し伸べようとするのは無駄な努力だとわかっています。
どうか聖霊の導きに敏感になれるように助けてください。
これらのことを尊いイエスの御名によって祈ります。アーメン。